



学校だより

# 志高く

正しい判断力とたくましい実践力を  
もった熊谷東中生を育む学校

発行 熊谷市立熊谷東中学校  
電話 048(521)0066  
FAX 048(521)8429  
令和7年9月1日  
第6号

## 止まることのない時の流れの中で今を生きる 校長 吉田 順一

一か月以上の夏休みが終わり、本日より授業が再開され、夏休みを過ごし大きく成長した子供たちの姿が学校に戻ってきました。3年生が受験生としての夏を迎える中、グラウンドや体育館では、先輩方からバトンを受け継ぎ汗を流す1・2年生の姿がありました。こうして、1年、また1年と時間が流れる中、時代は移り変わっていくのでしょうか。

今年の夏、私が広島原爆ドームや平和資料館を訪問する中で、「戦争の被害を体験している人が、80年という時間の中で、どんどん少なくなっている。だから私たちは、戦争の恐ろしさを、平和の大切さを語り継いでいかなければならない」と話す高齢者に出会いました。その方の周りには、多くの学生がおり、真剣に高齢者の話を聞いていました。



私たちの住む熊谷にも、終戦前日の8月15日に、戦争最後の空襲であり、埼玉県で最大の空襲である「熊谷空襲」の被害にあわれた方々があります。空襲は、1時間以上も続き、市内の中心部はほぼ焼き払われました。そして、その炎の下では、水に入れば助かると「星川」に飛び込んだ人々が、川の両岸から迫った炎に包まれ命を落としたといわれています。8月16日に行われた星川とうろう流しでは、平和への願いや犠牲となった人々への慰霊の念を込めたとうろうが参加者によって流されていました。

世界を見れば、今でも戦争の惨禍の中、食べるものがなくその日を生きることが精一杯の子供たちもいます。そのような、子どもたちに私たちはどんな声をかけることができるのでしょうか。

その答えが、平和式典の中の子ども代表の言葉の中にありました。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

**多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。**

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。大人だけでなく、子どもである私たちも平和のために行動することができます。

令和7年「平和への誓い」子ども代表の言葉より

未来への希望を捨てずに命をつないだ先輩たちがいます。しかし、その一方で生きたくても生きられなかった人もいます。私たちは生きたくても生きられなかった人の未来を、歯を食いしばりながら生きてきた人々のおかげで生きています。これからも、「ありがとう。」や「ごめんね。」の言葉でお互いを認め合い、許し合いながら、命のバトンを未来へとつないでいきましょう。そして、仲間とともに平和な世界を創っていきましょう。



「熊谷東中」の名を背負い、県大会でも精一杯、力を発揮してくれました。



関東大会出場



学校総合体育大会の県大会が行われ、本校の生徒が熊谷市の代表として活躍しました。男子バレー部は、見事、県の代表として関東大会へ出場しました。また、合唱部も県大会本選へ出場しています。今年は、PTAの皆様から『のぼり旗』の寄贈を受けました。旗は、校門北側に風になびき地域の誇りとなっており、生徒たちはとても喜んでいました。応援ありがとうございました。



全国学力・学習状況調査について

	国語	数学	理科
熊谷東中	59.0	52.0	517
埼玉県	55.0	50.0	502
全国	54.3	48.3	503

国語・数学は平均正答率  
理科は平均 IRT スコアの状況

3年生が受験した全国学力・学習状況調査の結果が返ってきました。(個票は、10月16日に返却する予定です。)本校の生徒は、国語・数学・理科すべてで県や全国の平均を大きく上回る成績を残しました。今後も、言語事項の定着の徹底や、学び合い活動などの言語活動の充実に取り組み、熊谷市とともに学力日本一を目指してまいります。また、質問紙調査では、規則正しい生活が送れていることもわかりました。家庭でのご指導ありがとうございます。

地域の方から熊谷東中学校の生徒へ

子ども110番の家の方から、手紙が届きましたのでお知らせします。



成田小学校のスクールガードを15年以上しており、朝の子どもたちの登校時に見守り活動を行っているものです。先日、見守りをしていた際、一人の女子中学生が手押し信号を渡るために信号が変わるのを待っていました。信号が青に変わり、横断歩道を渡る際、まず止まってくれた車に会釈をして渡りはじめ、渡り終わった際にもまた会釈して通り過ぎていきました。

そのさわやかさに私は、(青信号に代わると)当然のように渡っていた自分に気づかされました。中学生はいつものことで普段どおりに渡ったのですが、自分の権利ばかり主張する現在に、こんな感謝の気持ちをもってくれる子どもがいることに私は大きな感動をしました。

先生方、何かの機会がありましたら、学校でこの話をさせていただけたらと思います。夫と私、そして愛犬と一緒にこれからも安心安全な見守りを続けていきたいと思ひます。

地域に見守られながら、感謝の心をもった生徒が育っていることを校長としても嬉しく感じた手紙でした。スクールガードや子ども110番の家の皆さん、これからもよろしくお願ひします。